平成 30 年度　学校評価　パワーアッププラン

学校名	丹波市立黒井小学校

○目標・方針

中期的な学校運営の目標・方針	本年度の重点目標
地域に根ざし、生きる力をはぐくむ教育の推進　ー自立・協働・創造ー **自立・・自分らしさを伸ばしていける子** **協働・・助け合って　共に生きる子** **創造・・よりよい生き方を実践する子**	**Ⅰ　自立して未来に挑戦する態度の育成** **Ⅱ　子どもたちの学びを支える仕組みの確立** **Ⅲ「生きる力」を育む教育の推進** **Ⅳ　家庭や地域と一体となった安全・安心で開かれた学校づくり**

○自己評価　　**○学校関係者評価**

領域	評価の観点	評価項目	達成状況	学校の取組状況(・)と改善の方策(○)	自己評価の各観点に対する評価
学校運営	開かれた学校づくり	積極的な情報発信をするとともに保護者・地域の意見を反映させる。	B	**・ 学校、学級便り、ホームページの更新などで積極的に情報発信した。学級だよりでは、保護者に学校生活をありのまま伝えたり、子どもの課題をわかりやすく伝えたりして工夫した。** **・ 保護者に授業公開や行事への出席を呼びかけた。また、保護者からの感想用紙を回収し、指導の改善につなげた。** **【参加者数】4月参観日　183 名／6月 OS　225 名／9月運動会　320 名／10 月人権参観日　111 名／11 月黒井城まつり　500 名／11 月音楽会 184 名／12 月マラソン 184 名／1 月命の参観日 153 名** ○家庭や地域の教育力を向上させる意図を持って授業公開の方法や内容を見直すとともに、地域住民の方々の参観を増やす。	**Aが適切な評価である** ○年間を通して各行事の参加人数が多い。保護者の関心・意識の高さがうかがわれる。 ○来年度コミュニティ・スクールを導入するが、これを機に、さらに参画意識を高めてほしい。○参加率のよくないPTA総会などでは参加率を上げるための工夫をしてはどうか。○行事のための行事になっているものもある。意味のあるものに変えていくことで参加者も増えるのではないか。
	組織運営	教職員が、思い・情報・目的・方法・プロセスを共有し、組織対応を図る。	A	**・ 生徒指導やいじめ対応については、担任のみが対応することのないよう組織対応を徹底した。問題行動やいじめ事案、不登校傾向について早期対応、早期解決につながった。** **2月末現在不登校児童0人、いじめ事案 3 件の経過観察中。** **・ 児童の情報交換を定期的に行い、全教職員が個々の課題を共有して指にあたった。** **・ 学習や生活の月目標を全校で設定し、全教職員と全校児童が同じ方向性を持って取り組んだ。** ○教職員が入れ替わっても持続可能な協働体制を構築していく。	**Aが適切な評価である** ○虐待や不登校、いじめなどが問題になっているが、黒井小学校では、教職員が情報共有して早期発見・早期対応されていると感じている。○いわゆる学級王国にならないように、全職員ですべての児童をみているという取組がよい。○集団登校できていない児童が気になる。○家族や地域住民など、大人が子供を気にかけてやることが大事である。
教育課程	指導方法の工夫改善	対話的で深い学びとなる授業づくりの研究と、学びに向かう集団作りに努める。	A	**・ 国語科の研究指定を受け「関係づける思考」を活用した授業の効果・影響の検証を行った。教職員の授業改善が進みむとともに、児童の学力向上、粘り強く学習に取り組む態度の育成につながった。** **【根拠】全国学力・学習状況調査(４月)や、丹波市定着度調査(１１月)で概ね全国平均を上回った。高学年の国語において無回答率が0であった。授業がわかるとアンケートに答えた児童は 98.1%** **・ 学習規律や課題の与え方など、学習を下支えする力の育成に全学年で取り組んだ。** **・ 朝学習：スキルタイムを毎日実施し学習習慣の定着を図った。** ○新学習指導要領の理念を理解し、教科横断的な視点から、育成すべき資質・能力を焦点化する。	**Aが適切な評価である** ○国語で研究されたことが、他教科や学校生活全般に繋がっているという良い成果が出ている。発表のための研究会になることが多いと聞くが、子どもに成果が表れていることがよい。○職員室の中で、授業の様子や子どものことで会話が弾むような、今の状態を継続させてほしい。○学力は概ね全国平均を上回っている。子どもも先生も十分に頑張っているのではないか。
	特色ある教育課程	「黒井城まつり」や「黒井型体験学習」を通したふるさとに対する誇りと愛着心の育成に努める。	A	**・ 「黒井城まつり」や「黒井型体験学習」などで、地域の自然、歴史、産業、人との関わりにおいて地域と連携した「たんばふるさと学」が計画的に推進できた。** **・ 「黒井の地域や人のことがすき」と 90%の児童が答え、「学校は郷土愛を育てている」と 100%の保護者が答えた。** ○次年度のコミュニティ・スクールの設置に向けて、地域・保護者の啓発に努める。	**Aが適切な評価である** ○黒井には歴史も人もあると羨ましく思われることがあるが、1から人が調べて形にされたものが多い。これからも有効活用をしてほしい。○以前は「ふるさと学」はなかった。とてもよい学習だと思う。○保護者も黒井に興味を持ち知ってほしい。○平成たんば塾は本年度で終了したが続けていきたい。
課題教育	特別支援教育	互いの良さを認め合える関係づくりに努める。	B	**・ PTA 総会や児童集会で啓発を行い、全校で本教育の理解を図った。** **・「認め合える仲間づくり」を中核に据え学級経営を行った。** **・ 保護者の悩みや相談に丁寧に応じるとともに、関係機関と連携し、専門的な指導を仰いだ。** **・ 子ども園と連携し、就学前の保護者との教育相談や学校見学を積極的に行った。** ○職員研修を継続し、授業のユニバーサル・デザイン化に努める。	**Bが適切な評価である** ○保護者にも、地域の行事をはじめいろいろなところに参加してほしい。それが次世代の人材育成につながる。○地域でも大人と若者と子どもが一緒になるような人と人の繋がりをつくっていきたい。○児童の数が少なくなったことで、より個別に対応できるようになったが、自立を促していくことも大事にしてほしい。
	人権教育	人権意識の高揚を図る。	B	**・ 言葉を大事にした教職員の指導を徹底した。** **・ 人権参観日や命の参観日を実施し、家庭対話へつないだ。** **・ 児童会役員を中心とした自治的な挨拶運動、いじめゼロ運動など人権を尊重する取組を計画的に実施し、いじめを許さない学校文化の醸成に努めた。** ○教職員自らが、新たな人権課題について学んでいく。	**Bが適切な評価である** ○大人が仲裁に入るのではなく子どもたちで解決する力をつけたい。○幼児期にも、大人が子どものもみあいを事前に止めるような傾向がある。躾ができていないと思われないか気になるのが原因。○親同士のコミュニケーションが必要である。○LGBTなどの新しい人権感覚も培ってほしい。

※領域（３領域）　　学校運営、教育課程、課題教育

※評価の観点例（網羅するのではなく、各学校で観点を絞る）

領域	観点例
学校運営	学校経営、組織運営、生徒指導、進路指導、教職員の育成、危機管理、安全管理、保護者・地域住民との連携、施設設備　　等
教育課程	学習指導、道徳教育、総合的な学習の時間、指導方法の工夫改善　　等
課題教育	特別支援教育、人権教育、福祉教育、情報教育、食育、防災教育、環境教育　等

※達成状況　　A：優れている　　B：おおむね良好　　C：やや改善　　D：要改善

自己評価の実施方法についての評価

6月には保護者と児童に教育アンケートを実施し、実態調査をした。その結果を地区懇談会で提示し、保護者、地域住民、教職員で話し合う機会を設けた。12月にもアンケートを実施し、その結果を1学期の結果と比較し考察しているので、取組の成果や課題が把握しやすい。3学期には、成果や課題を考察したものを、保護者に公表し、課題や改善点などを示すなど適切に情報提供がなされている。

学校関係者評価を受けての次年度の改善の方向性について

次の事項を重点に取り組む。**1. 学びの基盤をつくる**ために学校生活すべてにおいて取り組むこと　①「ことばの力」の育成　②視覚力と体幹を鍛える　③「自分がされていやなことは　人にしない　言わない」ことの徹底。　2. 主体的に学びに向かう子どもの育成　**3. 対話的で深い学びを支える授業づくり**～各教科の特質に応じた見方・考え方の育成～　**4. 質の高い効率的な組織運営の実現**　①教職員個々のスキルアップ　②組織運営につながる各施策　**5. 社会に開かれた教育課程**　①コミュニティ・スクールの効果的な運用　②異校種間・関係機関との連携

学校関係者評価のまとめ

年間を通して児童がいきいきと学習している。学力調査やアンケート調査からも、その成果や学習習慣の定着が見られ、研究の取組や組織運営によって効果的に子どもの育成につながっている。共生社会をめざし、人権教育や仲間づくりをすすめてほしい。また、開かれた学校づくりの観点で、コミュニティ・スクールにつなげ、地域とともにある学校づくりをめざしてほしい。